

平成30年 5月 1日

平成30年度病虫害発生予察注意報（第2号）

和歌山県農作物病虫害防除所

1. 病虫害名 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
2. 対象作物 ウメ、モモ、スモモ、カキ、カンキツ
3. 対象地域 県内全域
4. 発生量 多
5. 加害期間 5月上旬～
6. 注意報発表の根拠
 - 1) 落葉中のチャバネアオカメムシ越冬成虫の捕獲頭数は、落葉50%当たり1.5頭（前年0.0頭、平年0.5頭）と平年より極めて多かった（表1）。
 - 2) 越冬成虫の捕獲地点率は61.7%（前年0.0%、平年19.0%）と、平年より極めて高かった（表1）。
 - 3) みなべ町東本庄の予察灯における4月1～25日のツヤアオカメムシの誘殺数は221頭（過去8年の平均9.5頭）であった（表2）。

表1 チャバネアオカメムシの越冬密度

年次	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	平年
捕獲頭数/1地点	0.1	0.3	0.3	0.0	1.0	0.1	2.1	0.3	0.3	0.0	1.5	0.5
捕獲地点率(%)	12.7	20.3	18.2	1.6	37.5	6.3	51.1	23.4	19.1	0.0	61.7	19.0
調査力所数	63	64	66	64	64	64	47	47	47	47	47	—

注1) 定点における雑木林の落葉50%を1～2月(一部3月)に調査。

注2) 捕獲地点率は全調査地点のうち越冬成虫が捕獲された地点の百分率

表2 みなべ町における予察灯へのツヤアオカメムシの誘殺数(2018)

調査期間	本年	過去8年の平均
1～5日	14	0.0
6～10日	0	0.9
4月 11～15日	74	2.0
16～20日	4	2.6
20～25日	129	4.0
計	221	9.5

7. 防除上の注意事項

- 1) 果樹カメムシ類の飛来量は園地間差が大きいので、園内での発生及び被害状況を観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
- 2) ウメでは被害の品種間差が大きく、小梅類等の収穫の早い品種で集中して加害される傾向があるので、これらの品種では特に注意が必要である。カンキツでは蕾、花を加害するので、被害状況を観察して防除する。カキやモモ、スモモでは山林に隣接する園でカメムシの飛来時期が早いので、園内での発生状況を観察して早めに防

除する。

- 3) 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室のウェブページ内農作物病害虫防除所の果樹カメムシ情報
(<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>)
や各地域の振興局、JA等の情報を参考にする。
- 4) 農薬については、(独)農林水産消費安全技術センター(FAMIC)の農薬登録情報提供システム(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)を参照し、適正に使用する。

担当：農作物病害虫防除所

紀の川駐在 弘岡、間佐古 電話：0736-73-2274

有田川駐在 勘代、武田 電話：0737-52-4320

みなべ駐在 江畑、沼口 電話：0739-74-3780